

③.....は、魂が救われるかどうかは、あらかじめ神によって決定されているという「⑥.....」を説いたが、これが職業労働を神の栄光をあらわす道と理解する考えと結びついて、西ヨーロッパの商工業者のあいだに広く普及した。教会組織のうえでは、ルターが⑦.....制度を維持したのに対し、カルヴァンはこれを廃止し、教会員のあいだから信仰の厚いものを長老に選び、牧師を補佐させる⑧.....主義を取り入れた。

カルヴァン派は、16世紀後半にはフランス・⑨.....スコットランド・イギリス(イングランド)などにも広まり、ドイツや北欧諸国で有力であったルター派とならんで、もはや無視できないキリスト教の宗派となった。新教徒(プロテスタント)ということばは、これら、ローマ教皇の権威を認めず、聖職者の特権を否定する(⑩.....主義)宗派の総称になった。

イギリスでは、国王⑪.....がスペイン王家出身の王妃との離婚を認めようとし、教皇と対立して、宗教改革が始まった。彼は1534年の国王至上法(⑫.....)で国王がイギリス国内の教会(⑬.....)の首長であると宣言してカトリック世界から離脱し、さらに修道院を議会立法で廃止して、その広大な土地財産を没収した。しかし、教義面の改革がすすんだのは長男の⑭.....の治世であった。つぎの女王⑮.....はスペイン王室と結んでカトリックを復活しようとくわだてたが、⑯.....の治世になって、1559年の⑰.....でイギリス独自の教会体制が最終的に確立した。イギリス⑱.....は、ほぼカルヴァン主義を採用しているが、司教(主教)制を維持するほか、儀式の面でも旧教に似かよった点を残しているため、⑲.....(清教徒)と呼ばれた人々はカルヴァン主義をより徹底することを求めた。

2. 内容をまとめよう。

② カルヴァンと宗教改革の広がり	
	(1) スイスの宗教改革
17	a (17) …チューリヒで宗教改革を開始(1523)
18	b カルヴァン…フランスの人文主義者、『(18)』を公開、神の絶対主権を強調
19	する厳格な禁欲主義→(19)で一種の神権政治実施
	(2) カルヴァンの教義
20	a 「(20)」…魂が救われるか否かはあらかじめ神が定めている
21	b (21) …司教制度を廃止、教会員のなかから長老を選び、牧師を補佐させる
	c 職業労働は神の栄光をあらわす道→西ヨーロッパの商工業者の支持
	(3) カルヴァン派の普及…16世紀後半には各地に広まる
22	a 勢力拡大…ルター派とならぶ宗派になる→プロテスタントは(22)の権威を
23	認めず、聖職者の特権を否定する((23))宗派の総称となる
24	b 各国での呼称…フランス：(24)、ネーデルラント：ゴイセン、スコットラ
25	ンド：プレスビテリアン、イングランド：(25)

(4) イギリスの宗教改革

- a 国王(26) (在位1509～47)…王妃との離婚を認めない教皇と対立
 [(27) (首長法, 1534)でカトリック世界から離脱
 議会立法で修道院を廃止し, 広大な土地財産を没収
 b (28) (在位1547～53)…教義面の改革が進む
 c (29) (在位1553～58)…スペイン王(30)と結婚, カトリック復活企図
 d (31) (在位1558～1603)…(32) (1559)でイギリス国教会を確立
 [ほぼカルヴァン主義を採用するが, 司教制を維持, 儀式は旧教に似る
 (25) (清教徒)はカルヴァン主義の徹底を求める

26

27

28

29

30

31

32

□ 対抗宗教改革 (教科書 P.212)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

対抗宗教改革

宗教改革の進展を前にカトリック教会は, 教義の明確化と内部革新をつうじて, 勢力をたて直そうとつとめた。これを① (反宗教改革)と呼ぶ。1545年から② で開かれた公会議で, 教皇の至上権を再確認するとともに, 腐敗の防止をはかり, 他方では③ 目録をつくり, 宗教裁判所を強化して思想統制をおこなった。スペインの④ が⑤ ら同志とともに結成し(1534年), 教皇の許可をうけた⑥ (ジェズイット教団)は, 厳格な規律と組織のもとに, ヨーロッパだけでなく, 海外でも積極的な宣教・教育活動をくりひろげ, カトリック教会の勢力回復に貢献した。この結果, 南ヨーロッパへの新教の進出ははばまれ, ⑦ ドイツの多くの地域も新教徒から奪回された。海外でのカトリックの布教活動は, 「大航海時代」の世界的通商・植民活動と密接なつながりをもっていた。1549(天文18)年にザビエルが日本に来航したのもその一環であった。

宗教改革はカトリック教会の普遍的権威を動揺させたが, 宗教改革と対抗宗教改革によってキリスト教が権威を高めた君主と結びついて, ヨーロッパの人々一人ひとりの生活をより強く律するようになるという側面もあった。他方, 旧教徒と新教徒の対立の激化から, ヨーロッパ各地で⑧ が起こった。さらに, このような社会的緊張の高まりのなかで, 「⑨」[悪魔の手先として魔術をおこなうとの疑いをかけられたものに対する激しい迫害で, 異端迫害の形をとった。ヨーロッパでは16世紀から17世紀が最盛期で, これにより10万人以上といわれる人々が殺された。犠牲者の大半は女性であったが, 男性も含まれた]がさかんにおこなわれた地域もあった。

2. 内容をまとめよう。

④ 対抗宗教改革

- (1) 対抗宗教改革 (反宗教改革) …カトリック教会が, 教義の明確化と内部革新で勢力をたて直しにつとめた運動

(2) (33)公会議(1545～63)

- a 教皇の至上権を再確認し、腐敗の防止をはかる
- b 禁書目録をつくり、(34)を強化して思想統制をおこなう

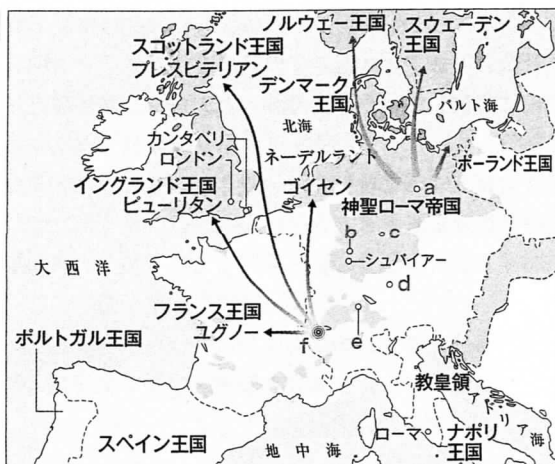
(3) イエズス会(ジェズイット教団)…カトリック教会の勢力回復に貢献

- a スペインの(35)が(36)ら同志と結成(1534)
 - 「厳格な規律と組織で海外でも積極的な宣教・教育活動」
 - 「南ヨーロッパへの新教進出をはばみ、南ドイツを新教徒から奪回」
- b 海外での活動…通商・植民活動とつながる→(36)の日本来航(1549)

(4) 宗教改革・対抗宗教改革の影響

- a カトリック教会の(37)的権威が動揺したが、キリスト教がヨーロッパ人の生活により強く律するようになる
- b 旧教徒と新教徒の対立の激化→各地で(38)戦争がおこる
- c 社会的緊張の高まりのなかで「(39)」がおこなわれる

整理



33

34

35

36

37

38

39

a

b

c

d

e

f

▶「世界史B」の教科書に対応しています。

▶計画的に取り組み、学校再開後の最初の授業時に提出すること。

第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 3 宗教改革

□宗教改革の始まり(教科書 P.209)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

宗教改革の始まり

カトリック教会への批判はすでに14世紀頃からみられたが、1517年、ドイツ中部ザクセンの①_____大学神学教授②_____は、魂の救いは善行にはよらず、キリストの福音を信じること(③_____)のみよるとの確信から、④_____ (免罪符)の悪弊を攻撃する⑤_____ の論題を発表した。当時、メディチ家出身の教皇⑥_____ は、ローマの⑦_____ 大聖堂の新築資金を調達するために、教会への喜捨などの善行を積み、その功績によって過去におかした罪も赦されると説明して、贖宥状を売り出していた[ドイツは政治的に分裂していたため、教皇による政治的干渉や財政上の搾取をうけやすく、「⑧_____ 」といわれた]。ルターの主張がドイツ各地に伝えられると、教皇庁の搾取に反発する諸侯や市民、領主の搾取のもとにあった農民など、広範な社会層がそれを支持した。

1521年、ルターは教皇から破門され、皇帝⑨_____ に⑩_____ の帝国議会に呼び出されたが、自説を撤回せず、⑪_____ 選帝侯の保護のもとで『新約聖書』の⑫_____ 訳を完成した。これにより、民衆が直接キリストの教えに接することができるようになった。他方、ルターの説に影響をうけた⑬_____ は、農奴制の廃止などを要求する⑭_____ 戦争(1524～25年)を指導して、処刑された。ルター自身は最初、農民蜂起に同情的であったが、やがて、これを弾圧する諸侯の側にまわった。⑪_____ 選帝侯をはじめ、ルターの教えを採用した諸侯はカトリック教会の権威から離れ、領内の教会の首長となり(⑮_____ 教会制)、修道院の廃止や教会儀式の改革などをすすめた。

その後ドイツでは、カール5世がイタリア戦争やオスマン帝国による⑯_____ 包囲などの国際情勢のために、しばしばルター派との妥協にせまられた。旧教徒(カトリック)と新教徒(⑰_____)の争いは⑱_____ 戦争にまで発展したが[「⑰_____ 」の呼称は、皇帝カール5世が1526年にいったん認めた信教の自由を29年に取り消したことに対して、ルター派諸侯が「抗議文」を提出したのに由来する。ルター派の諸侯と都市は30年には⑲_____ 同盟を結んで、皇帝に対抗した]、1555年、⑲_____

の和議が成立した。ここに、諸侯はカトリック派とルター派のいずれをも採用することができるが、領民個人には信仰の自由はなく、それぞれの諸侯の宗派に従うという原則が確立した。やがてルター派は北欧諸国にも広がっていった。

2. 内容をまとめよう。

① 宗教改革の始まり

(1) ドイツの宗教改革の始まり

- a 教皇(1)…メディチ家出身、(2)大聖堂の新築資金調達のために(3)を売り出す
- b マルティン＝ルター…(4)大学神学教授、魂の救いはキリストの福音を信じること(福音信仰)のみによると確信
- c (5)の論題…ルターが(3)の悪弊を批判(1517)→広範な社会層が支持

(2) 宗教改革の展開

- a 教皇の攻撃…ルターを破門(1521)
- b 皇帝(6)の対応…(7)の帝国議会に呼び出し、自説撤回を求める
→ルターは撤回せず
- c (8)選帝侯の保護…ルター、『(9)』のドイツ語訳を完成
→民衆が直接キリストの教えに接することができるようになる
- d (10)…農奴制廃止などを要求する(11)戦争(1524～25)を指導
→ルターは最初農民蜂起に同情的→弾圧する諸侯の側にまわる
- e (12)制…ルター派諸侯、領内の教会の首長となり、修道院の廃止や教会儀式の改革を進める

(3) 妥協の成立

- a カール5世…イタリア戦争やオスマン帝国の(13)などで妥協を迫られる
- b 「(14)」の呼称…カール5世が1526年に認めた信教の自由を29年に取り消す
→ルター派諸侯が抗議文を提出したことに由来
- c (15)戦争(1546～47)…カトリックと(14)の争いから発展
- d (16)の和議(1555)…諸侯にカトリックかルター派かの選択権を認める
→個人に信仰の自由がなく、それぞれの諸侯の宗派に従うという原則
- e ルター派は北欧諸国にも広がる

□カルヴァンと宗教改革の広がり (教科書 P.211)

1. 空欄を埋めながら教科書を読んでみよう。

カルヴァンと宗教改革の広がり

スイスでは、①が
チューリヒで宗教改革を開始したが、その後、
フランスの人文主義者で『②』を公刊した③
が④で独自の宗教改革をおこなった。彼の教えの
特徴は、神の絶対主権を強調する厳格な禁欲主義で、④では
一種の⑤政治がおこなわれた。